

阿蘇くじゅう国立公園 長者原ビジターセンターからお届けする

くじゅうだより

TAKE FREE!

生き物の宝庫！
タデ原湿原に咲くお花たちの1年
2025 春号

くじゅうファンクラブ活動情報

*「くじゅうファンクラブ」は、「くじゅう地区管理運営協議会」の通称名称です。

皆さまのご支援で、
こんな活動をしています。

教育・普及啓発
自然環境保全・調査
登山道等整備活動

九州学生ワンダーフォーゲル連盟様から 登山道整備のためのご寄付をいただきました！

九州学生ワンダーフォーゲル連盟様より、8,821,589円のご寄付をいただきました。九州学生ワンダーフォーゲル連盟は昭和30年代に発足し、最大15~20校が加盟していた九州一円の大学のワンダーフォーゲル連盟です。この連盟では毎年1人500円ずつ遭難対策として積立を行っていました。この度団体の解散にあたり、この積立金をくじゅう連山の遭難対策に役立ててほしいとのことで、当協議会へご寄付いただきました。これを受け、くじゅうファンクラブでは、特別会計として「九州学生ワンダーフォーゲル連盟基金」を立ち上げました。来年度以降はこちらの基金を毎年利用させていただきます。道標整備等の登山道整備活動に充てていく予定です。執行状況については毎年HP上で総会資料の中で公開する予定です。この度は多大なるご寄付をいただき、誠にありがとうございました。



野焼き支援の準備を進めています！

毎年春に行われている「野焼き」。私たちくじゅうファンクラブでは、野焼き活動の支援としてこれまでスタッフの派遣だけでなく、飲食物の提供や消火道具の購入などを行ってきました。今年度は消火道具の「背負い式水のう」を4機購入しました。これは約20kgの水が入るリュックのような消火道具で、野焼きを安全に実施するために欠かせないものです。また野焼きボランティアへ配る飲み物の一部を、伊藤園さまよりご寄付をいただき準備しました。このように野焼き支援物資購入に使われている基金は、くじゅうファンクラブ賛助会員の皆さまから頂いた会費や寄付金よりまかなわれています。皆さまからの支援が大きな力となっています。心より感謝申し上げます。



チームタデ原 北九州遠征

2月23日、九重町の小学校4年生~中学生からなる「チームタデ原」は福岡県北九州遠征へ行ってきました！今回の活動は長者原ビジターセンター秋の企画展の一部をチームタデ原メンバーが制作するため、「いのちの旅博物館」で展示方法や工夫、伝わりやすい説明について自分たちが展示を作るならどうするか？をテーマに見学しました。メンバーは広い博物館の展示に圧倒されながらも、懸命にメモを取り展示について学びました。次にカルスト台地が広がる平尾台へ。あいにくの雪となりましたが、タデ原湿原との違いについて実際に目で見て学ぶことが出来ました。さらに国の天然記念物に指定されている千仏鍾乳洞では、カルスト台地の地下に出来た鍾乳洞を流れる水の中を歩き、水の流れを実際に体験しました。盛りだくさんな内容でしたが、秋の展示に向けて、とても学びの多い遠征となりました。



タデ原湿原 シカ柵設置の効果

令和6年4月、シカの食害によるタデ原湿原の希少種減少を受け、シカ柵を設置しました。設置して初めて迎えた初夏、タデ原を代表する希少種たちの開花時期ですが、どのような効果が見られたのでしょうか。柵を覗いてみると、近年激減しているツクシフウロやヒゴシオンの花が！また、動物カメラで柵回りをチェックしたところ、近くを徘徊するシカの姿を確認し、柵が役割を果たしているを確認できました。また、この柵は希少種保全の効果検証を兼ねています。信州大学緑地生態学研究室に協力をお願いし、専門的な知見から柵内外の植生・開花個体種の変化について調査を行っています。植生の保全・維持につなげていくため、この調査を継続していく予定です。



阿蘇くじゅう国立公園・タデ原レクチャー ＜参加費無料/要予約(団体向け)＞

学校などの団体向けプログラム。国立公園の概要やタデ原湿原についてなどのレクチャーを15分~30分程度で行います。お気軽にご相談ください。



タデ原の自然観察会 ＜参加費無料/事前申込不要(個人の場合)＞

九重の自然を守る会のボランティアガイドによる人気のイベント。毎週日曜・祝日10:00~12:00に開催しています(12~2月は隔週)。参加希望の方は10時までに、直接ビジターセンターへお越しください。団体でのお申し込みの場合は事前にご相談ください。



くじゅうファンクラブのご支援をよろしくお願いいたします

くじゅうファンクラブでは、上記のような教育・普及啓発活動、自然環境・調査活動、登山道等整備活動を実施しています。私たちの活動に賛同し、応援してくださる賛助会員(個人1口3,000円/年 団体1口10,000円/年)や寄付を募集しています。賛助会員の方には、タデ原湿原の花の開花情報やヤマキリシマ・紅葉などの旬の情報を定期的にお届けしております。また缶バッジのプレゼントやくじゅうファンクラブの活動報告の更新などたくさんの特典をご用意しています。昨年度より、紙資源の削減やさらなる会員様への利便性を図るため、新たにクレジットカード決済会社としてコングラント株式会社のシステムを導入いたしました。くじゅうの自然を守るには引き続き皆さまのご支援が必要です。詳しくはくじゅうファンクラブのホームページまたは右のQRコードからご確認ください。



1 詳しくはこちらのQRコードから

くじゅうだより2025春号

発行元：くじゅうファンクラブ
(くじゅう地区管理運営協議会)

〒879-4911
大分県玖珠郡九重町大字田野255-33
長者原ビジターセンター
TEL & FAX 0973-79-2154

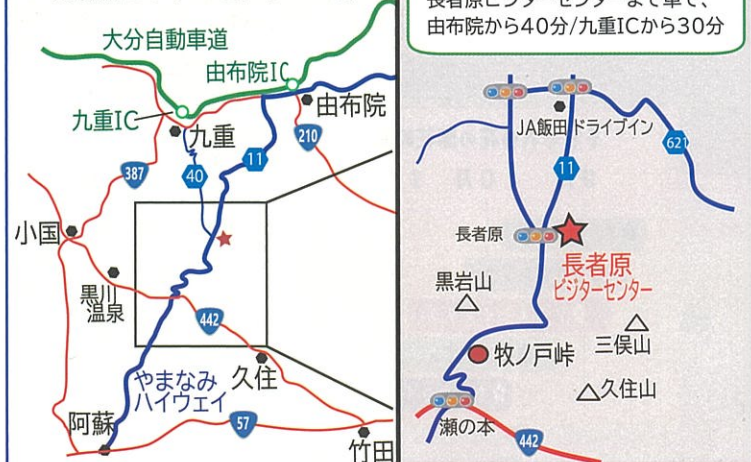
★活動報告やくじゅうの基本情報などはくじゅうファンクラブホームページで！
<http://kujufanclub.com/>

★くじゅう最新の自然情報は公式・Facebook・Instagramで配信中！

リレー式 職員からのひとこと

今季の冬は全国的に大雪となりましたね。くじゅうに来て丸3年が経ちますが、今年が一番の厳しい寒さになったのでは？と感じています。どれくらい雪が積もっただろうとワクワクする朝も、水道管が凍っていないかなと心配する日々も終わり！暖かな春の到来です！！くじゅうの春を告げる野焼きも少しずつ始まり、真っ黒な大地にはキスマレを先頭に鮮やかな草花や木々の新緑がいのちを繋いでいきます。魅力たっぷりのくじゅうの自然を味わってみませんか？ (又吉)

長者原ビジターセンターへは



長者原ビジターセンターまで車で、
由布院から40分/九重ICから30分

生き物の宝庫！タデ原湿原に咲くお花たちの1年

はるか昔から「野焼き」という人々の営みによって守られてきたタデ原湿原。豊かな自然が広がる湿原は、生き物たちのすみかになっているだけでなく、四季を通じて色とりどりのお花たちが咲き誇ります。タデ原に咲く美しい花々の1年を巡ってみましょう！

春は黒なり

「くじゅうの春は黒」と昔から言われているように、くじゅうの春は野焼きから始まります。野焼き後のまだ炭の香りが残る真っ黒な大地からは力強く新芽が芽吹き、キスミレを先頭にサクラソウやハルリンドウなどの花々で彩られていきます。森の中では木々の新緑が鮮やかに輝き、夏の支度を始めていきます。

キスミレ *Viola orientalis*

野焼き後真っ先に咲く花。鮮やかな黄色の花が黒い大地に映えている。斜面に多く群生して咲いているイメージだ。タデ原以外にも泉水山麓や久住高原側などの群落も見事である。

ハルリンドウ *Gentiana thunbergii*

春に咲くリンドウ。花は薄い青色で春らしい色合いをしている。太陽の光をいっぱい浴びるように咲き、曇りや雨の時は花の中にしずくが入らないように花をしぼめる。

サワオグルマ *Senecio pterotil*

真っすぐ伸びた茎の先に、花束を作るようにまとまって花を咲かせる。春に咲く花の中で一番草丈が高く、少しづつ伸びたススキ草原の中で見つけやすい。

サクラソウ *Primula sieboldii*

真っ黒な大地で一際存在感のあるピンク色の花を咲かせる。花弁はハートのように切れ込みが入っており可愛い。"サクラ"とつくが、桜の仲間ではない。

リュウキンカ *Caltha palustris var. nipponica*

タデ原では木道沿いの湿った場所でもよく見られる。輝くような黄色い花を咲かせる。花弁に見えるものは実は萼片(がくへん)といい、花弁とは違うものである。

それぞれの花の開花時期	4月	5月	6月
☆キスミレ			
☆サクラソウ			
☆リュウキンカ			
☆ハルリンドウ			
☆サワオグルマ			

ヒメユリ *Lilium concolor*

草原の中でひっそりと、美しい朱色の花を咲かせる。草原の減少に伴い、ヒメユリも数を減らしている。絶滅危惧種に指定されている希少種のひとつ。

ハンカイソウ *Ligularia japonica*

ヒマワリを小さくしたような元気な黄色い花。タデ原では大群落を作るほど年々数を増やしている。深く裂けるように切れ込みが入ったとても大きな葉が印象的だ。

それぞれの花の開花時期	6月	7月	8月
☆キスミレ			
☆ヒメユリ			
☆ハンカイソウ			
☆ノハナショウブ			
☆ヒゴタイ			

キスゲ *Hemerocallis vespertina*

別名ユウスゲとも言われるように夕方になると花を開き日中はしぼんだ状態の花。ここ数年タデ原ではシカによる食害の被害が目立つ花でもある。

ノハナショウブ *Iris ensata var. spontanea*

鮮やかな紫色をしたアヤメ科の花。木道沿いの湿った場所に咲く。夏になると木道を隔ててノハナショウブとハンカイソウの道ができる。

ヒゴタイ *Echinops setifer*

くじゅうでは昔から盆花として知られているヒゴタイ。日本列島が大陸と陸続きだったことを示す、大陸系遺存植物のひとつである。

夏は青なり

初夏のくじゅう連山ではミヤマキリシマが絨毯を敷いたように咲き広がり、タデ原ではハンカイソウやノハナショウブなど、多様な花が次々と咲いていきます。九重町の鳥に指定されているカツコウのなじみ深い鳴き声も草原や山中に響きます。高原の風が吹き抜ける涼しく短い夏は、あつという間に秋へと駆け抜けていきます。

冬は白なり

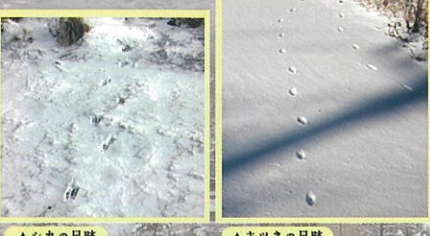
十一月中旬になると、鮮やかに紅葉した葉も少しずつ枯れていきます。はらりと一枚ずつ落葉した頃、霜や雪が降り始め厳しい冬が幕を開けます。あたりが白銀の世界に包まれるように静かに降った雪の上には、たくさんの動物たちの足跡が浮かび上がります。



冬は渡りの季節。多くの冬鳥がエサを求めて日本へやってきます。タデ原の近くでも、ツグミやアトリ・シロハラなどの冬鳥の観察ができるんですよ！



▲タヌキの足跡 ▲シカの足跡 ▲アマガマの足跡 ▲ノウサギの足跡



▲ツグミ ▲アトリ ▲シロハラ ▲ジョウビタキ

column:ラムサール条約登録湿地～タデ原・坊ガツル～

“ラムサール条約”をご存じですか？正式名称は「特に水鳥の生息地として国際的に重要な湿地に関する条約」といい、水鳥や湿地を守るために作られた国際条約です。現在日本では53か所もの条約登録湿地があります。2005年にタデ原湿原と坊ガツル湿原がラムサール条約に登録され、今年で20周年を迎えます！



ラムサール条約には①保全・再生 ②ワイズユース(賢明な利用) ③交流・学習の3つの基盤となる考え方があります。環境保全のために毎年春に野焼きを行い、秋には飯田地域で牛馬の餌を確保するための草こづみ作りも近年実施されています。また地元小中学生から成る自然保護団体は、九州のラムサール条約登録湿地で活動する他団体との交流も行っています。

秋は赤なり

黄金色に輝くススキの草原が秋風に揺らめきます。秋の草花は決して派手なものが多いものの、昔から人々に親しまれてきたように風情が感じられるものが多くあります。くじゅう連山ではドウダンツツジやカエデ類を中心とした樹々が紅葉し、肌は赤やオレンジ・黄色などの暖かな色が広がります。

アキノキリンソウ *Solidago virga-aurea ssp. asiatica*

タデ原湿原ではもちろん、登山道沿いでもよく見かける花の1つ。紫色の花が多い中、黄色い花が際立って咲いている。1つ1つの花は小さく、可愛い。

マツムシソウ *Swertia bimaculata*

草原を代表する花で、淡い紫色が美しい花。和名の由来はマツムシが鳴くころに花が咲くことから言われている。スラッと伸びた茎の先に花をつける。

ヤマラッキョウ *Allium thunbergii*

タデ原湿原が冬を迎える前に咲く最後の花のひとつ。赤紫色の花を茎の先で多数咲かせる。食用のラッキョウと同じ仲間。タデ原の他に、登山道沿いでも見られる。

アケボノソウ *Swertia bimaculata*

花弁の模様を夜明けの空に例えたことからこの名が付いた。黄色の丸い模様は蜜腺といい、ここから蜜を分泌している。昆虫に花粉を運ぶお手伝いをしてもらうための進化だ。

ヒゴシオン *Aster maackii*

国内では九州の一部にのみ生育する希少種。野菊の仲間は同定が難しいが、ヒゴシオンは花弁の紫が濃く、総苞片が丸い形をしている。何より花が上品だ。

それぞれの花の開花時期	9月	10月	11月
☆アケボノソウ			
☆マツムシソウ			
☆アキノキリンソウ			
☆ヒゴシオン			
☆ヤマラッキョウ			